

Monthly Report

2017年10月号

特集 秋の行楽シーズン 高速道路での注意事項

秋の行楽シーズンは、高速道路を利用する車両が増え、事故の危険も増加することから、今回は、高速道路における事故の形態と、その防止策について確認しましょう。

◆高速道路での発生が多い事故

- 簡易分離の一車線区間における反対車線はみ出し
- 逆走（進行方法と逆の方向へ走行）
- 停車している車や、降車して路上に降り立った人に衝突
- 車外へ放り出される
- 渋滞最後尾への追突

※政府広報オンライン（<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201307/5.html> 2017.9.15閲覧）

1. 高速道路での事故防止対策

◆事前準備

- 走行ルートや休憩場所などの行程表の策定
- 渋滞に備えて簡易トイレや眠気防止にガムなどの用意
- タイヤの溝や空気圧、燃料やオイルの量、ブレーキの効き具合などの点検整備
- 発煙筒や停止表示器材の確認

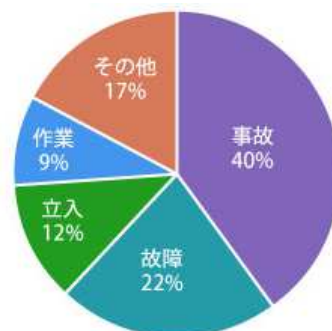
◆走行時の注意

- 制限速度の厳守
- 車間距離の確保、みだりに車線変更をしない。
- 計画的な早めの休憩
- シートベルトの着用（後席も忘れずに）

◆緊急時に駐停車した場合

- 路肩に寄せて停車する。
- 発煙筒や停止表示器材を利用する。
- 車両から降り、必ずガードレールの外側で救護を待つ。

高速道路上での人対車両による死亡事故
発生状況（2011～2015）



※政府広報オンライン

<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201307/5.html> (2017.9.15閲覧)

次に、高速道路上での死亡事故の発生状況で、「事故」に次いで大きな割合※を占める、「故障」時の対応についてご紹介します。



SOMPO ホールディングス
損保ジャパン日本興亜

2. 高速道路で駐停車した時の対応

高速道路では、事故や故障、危険を防止するために一時停止するとき以外、駐停車は禁じられています。また駐停車した場合は、自動車の後方の路上に停止表示器材を置き、後続車の運転者に停止していることがわかるようにしなくてはなりません。

◆故障で停車する場合の手順

- ①ハザードランプを点灯して、車両を路肩に寄せる。
- ②停止表示機材、発煙筒を車両後方に置く。
- ③ガードレールの外側に避難する。
- ④非常電話か携帯電話で救援依頼をする。

◆停止表示器材、発煙筒の設置

- 停止表示器材、発煙筒は、後続車両の運転者から見やすいよう、車から50m以上後方に置きます。
※夜間や見通しが悪い場合は、さらに後方に置きます。
- 燃料漏れがある場合は、引火の恐れがあるので発煙筒は使用しません。

反射部が後方を向くように設置



停止表示器材（組立て後）

50m以上後方に設置



停止表示器材（設置位置の例）

※車から50m以上後方に置くことがポイントです！



SOMPO ホールディングス
損害保険ジャパン日本興亜株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
ホームページ <http://www.sjnk.co.jp>

時間に余裕をもって、
「お・も・い・や・り」のある運転を！
みなさまの無事故を願っております。

エヌエスサービス（株）一同